# 日本レフェリー　オリンピック初出場決定

去る４月25日から５月１日の間、バルセロナにおいて開催されたトップレフェリークリニックに国際ハンドボール連盟の氏名で参加した島田房二、後藤登両氏は、参加20ペアの中から選ばれた12ペアのレフェリーとしてバルセロナ・オリンピックへの出場が決定しました。

日本のハンドボールレフェリーがオリンピックに出場するのは初めてであり、みなさまとこの快挙を喜ぶとともに両氏のご活躍に最大の応援をしたいと思います。

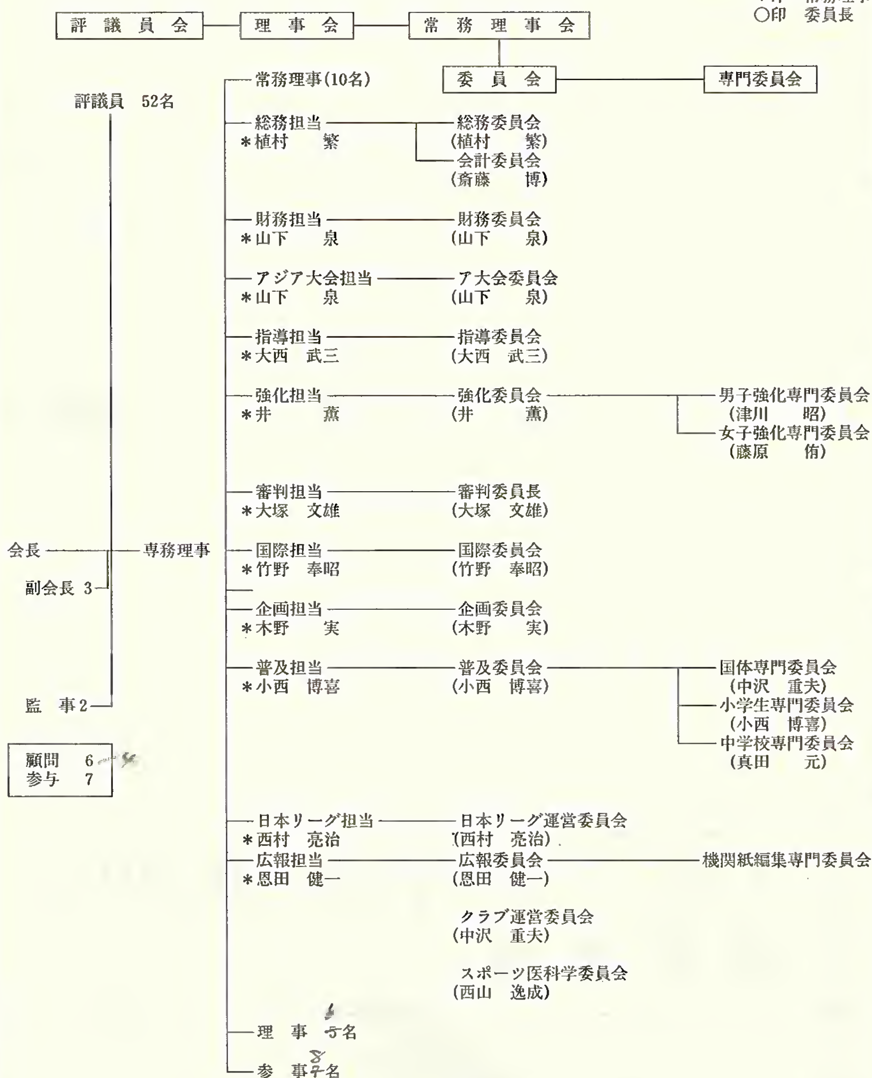
なお、出場が決定したペアは次の12ケ国です。(クリニックの報告は14ページに)

デンマーク、スペイン、フランス、ドイツ、日本、旧ソ連、ノルウェー、ポーランド、スウェーデン、ユーゴ、ベルギー

## （財）日本ハンドボール協会　役員分担　決定

先月号でご紹介した新理事の分担が４月18日の臨時理事会で次のように決定し業務を開始しました。

各委員会のメンバーは各委員長のもとで候補者を選考中です、５月16日の常務理事会で決定し活動を開始する予定です。



総務担当常務理事

## 植村　繁



50余年の間、多くの先輩のご努力で発展を続けてきた日本ハンドボール協会の理事を仰せつかり、その責任の重大さを認識するにつれ私のような未熟者にこのような大役が勤まるものかと不安でいっぱいですが、多くのかたがたのご推薦をいただいた以上、何としてもこの大役を全うしなければと決意を新たにしている次第です。

マイナーからメジャーへの掛け声のもと、今まで欠けていた企業性、国際性をどのように育てていくのかが新執行部に任された最大の課題だと思います。

限られたほんの僅かの人数で取り組むのではなく、多くの方々に参加していただける開けた協会、風通しの良い協会にするため委員会制度の充実を図っていきたいと考えています。

今まではどちらかというと経験豊富な方々で構成されていましたが、これからは若い方たちにも大いに活躍していただく場を作る努力もしていきたいと考えています。

ひとつひとつの委員会が活発に活動した場合、ともすると独りよがりになりがちです。今まで以上に横の連携を重視していく必要があります。

私ども理事は、自分の担当する業務を遂行するだけではなく常に横の連携に意を用いていきたいと思います。

しかし、何をするにしてもまず足元を固めなければ何もできません。そのためにも、今回担当することになりました総務はみなさんが思う存分活躍できる足場作りが最大の任務だと考えています。

年々増加する事務量、他団体との調整業務をいかにスピーディにこなし、加盟協会・連盟とのより良いコミュニケーション作りをすることが我々総務、事務局の任務だと思います。みなさんの一層のご協力とご指導をお願い申し上げます。

財務・アジア大会担当常務理事

## 山下　泉



この度、はからずも財務及びアジア大会担当常務理事に選任され、光栄に感じると同時に、その責任の重大さを痛感しております。

昨年8月、広島で開催されたアジア選手権大会の実行委員長を命じられ、日本協会の理事の方々のご指導や全国ハンドボーラーのみなさんのご支援、また、広島県協会のみなさまのご協力により、大会を無事終了することができました。

お陰様で大会は大成功という評価をいただきました。関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

広島県協会は、この大会の準備のため、2年間、また残務整理に6ヶ月を必要としました。平成6年10月の広島アジア大会は、この貴重な経験を生かし、頑張りたいと思います。引き続きご支援のほどお願い致します。

一方、財務担当となると全く自信がありません。ただ私にできるだけの努力でお世話をさせていただき、お許しを願うしかないというのが正直な感想であります。

肩肘張らず、裸になって、当たってくだけろの気持こそ大切ではないかと思っています。

燃えないローソクはローソクではありません。燃えない指導者も同じです。一生懸命やらないものにやりがいのわかるはずがありません。

全国のハンドボーラーのハートに火をつけ、潜在パワーを引き出して行動し、燃える集団、燃える協会を願っています。

バレー、サッカーに追いつけ、追い越せをモットーに頑張りたいと思います。

全日本チームの海外遠征費用をまだ選手個人に負担を課すようでは、日の丸を胸につけ戦う誇りと責任は生まれません。日本リーグを繁栄、充実させ、全日本チームを強化させることが早道だと考えています。

その結果、底辺が拡大し、財政も自然と安定してくるものと思います。

広島という地方都市に在住し、理事のみなさまに大変ご迷惑をおかけすることと思いますが、よろしくご指導のほどお願い致します。

# 新理事の抱負

## 指導担当常務理事　大西　武三



この度、再び理事を務めさせていただくことになりましたが、責務の重大さというものを非常に強く持ち、期待に添わなければならないという気持ちでいっぱいです。

指導・方法委員会の名のもとで指導者の育成を中心に活動していましたが、今回ほど指導者の連帯やハンドボールに対する基本理念の統一の課題解決が急務と思われたことはありません。

強化にしても普及にしても指導者の存在がこの大きな仕事を可能ならしめるものであり、指導者の連帯と向上ほど今の日本にとって大事なものはないと思っています。

ハンドボールが他のスポーツに伍して発展していくためには、ハンドボールの技術や戦術、そしてそのトータルとしてのゲームがすばらしいものでなくてはなりません。やる人、見る人の心を引きつけるものでなければなりません。

特に、教育としてのハンドボールである小、中、高校に対して、完成品、あるいはそれに近い大学、日本リーグ、ナショナルチームのハンドボールは、関係者だけでなく、すべての人々を魅了するハンドボールでなければ真の意味での発展は難しいのです。

そこで、今一番問題になっているのが指導体系の一貫化です。小学校の指導者からナショナルチームの指導者まであらゆる層の指導者がおられるわけですが、それぞれでの段階の指導の成果がその段階で終わってしまうことなく、また意識するしないにかかわらず日本のハンドボールの普及や強化につながっていかなければなりません。

指導体系の一貫化のためには、その中身になる技術・戦術の体系をまず明らかにしなければなりません。私としては、各都道府県、連盟として公認指導者の養成や研修会を行い、それを通してあらゆる層の指導者とともに技術・指導体系の完成を目指して努力していきたいと思っています。

なにぶん非力でありますが、指導委員会のメンバーとともに頑張りたいと思いますので、みまさまのご支援をお願い申し上げます。

## 強化担当常務理事　井　薫



強化委員会を担当します。どうぞよろしくお願い致します。

バルセロナのオリンピックがいよいよ始まりますが、男女ナショナルチームは出場できない悔しさを胸に4年後のアトランタに向け、再挑戦のスタートを切りました。

ナショナルチームの目標は、オリンピックの出場とメダルの獲得を最大のものとしますが、私はこの他に強化の過程、存在そのものが全国のハンドボーラーに誇りと夢を与えるものでなければならないと思います。

ジュニアを含めスタッフにはご苦労をかけますが、その活動を可能な限り支える強化委員会でありたいと思います。

そして、次の三点を当面の方向づけとして提唱したいと思います。

①指導体制の一貫化

「韓国の成功は、底辺から頂点までのすべてのプレーヤーが共通の基本技で結ばれている」

これは指導・方法委員会のメインテーマでもありますが、確立に強化も積極的に参画、ナショナル、ジュニアのプレーヤーが不可欠の基本技を率先実践することで浸透を加速させたい。

②高校指導者のスタッフ参加

たとえば、春の選抜大会の優勝の指導者をスタッフの一員として位置付け、海外遠征や合宿等に随時参加、フィードバック効果を期待してたい。対象となる大会を至急検討したい。

③ナショナルスタッフの評価

スタッフは世界選手権、オリンピックを周期に任期を定めているが、チームを強化、向上させる人の任期の長期化、反面、年こそが勝負である厳しさも反映させて、強化部、協会で基準を設定して年ごとの評価を下し、かばい合う体質を排除したい。

日本の代表チームが、アジア、世界の強国に追いつくためにも皆様のご理解とご協力をお願い致します。

## 審判担当常務理事　大塚　文雄



私が審判の道を目指したのは、教員になりたての昭和40年、熊本のインターハイに都立神代高校の男女をつれて参加したときのことである。

当時の審判は、実にひどかった（ような気がする）。ハンドボールの技術で勝負ではなく、荒いプレーや審判の中立性が失われた笛がまかり通っていた。

お陰で、女子のGKは大腿骨の骨折、男子のエースも救急車で運ばれるという不運に見舞われた。スポーツには怪我がつきものとはいうものの、ああいう審判員がいては怪我をしないほうがおかしい。これではダメだ。と私は審判の世界へ……。

世界でも私が経験したようなことが起こっており、日本が不参加したモスクワ・オリンピックではこの荒い、汚いハンドボールは頂点に達した。歴史は日本でも、世界でも同じなんだなあ、と実感した。

私が初めてインターハイに参加してはや25年が過ぎ、ハンドボール界も発展したものだ。特に、審判では1981年にIHFがクリーンハンドボールを打ち出し、段階的罰則の適用……悪いプレーは警告から退場、そして失格へと進む、という考えで、ハンドボールが力から技術の勝負へと変わり世界的に目覚ましい発展を遂げた。

この考えから、審判員は自分のハンドボール観が笛に現れるようになった。

この年から世界も日本も監督と審判員の対立があったりしながら現在のクリーンでスピーディなハンドボールへと発展させてくれた先輩方、審判関係の審査委員・ブロック審判長・連盟審判長・ルール研究委員・都道府県の審判長、そして国際審判員・各審判員の多くの方々に対し、心から敬意を表します。

しかし、審判界では、まだまだやるべきことが山積みしています。今後ともほんの少しの努力を惜しまず、力を合わせて審判技術の追求と、審判員の地位の向上目指して頑張りましょう。

よろしくお願い致します。

## 国際担当常務理事　竹野　奉昭



国際委員会は、世界・アジアのハンドボール界の発展に寄与し、日本ハンドボール界の国際活動を充実させるため、次の事項を目的として活動する。

1、国際ハンドボール連盟への参加・参画
2、アジアハンドボール連盟への参加・参画
3、世界ハンドボール界の動向調査と情報分析
4、財団法人日本ハンドボール協会各委員会の国際活動のサポート
5、日本ハンドボール界の世界、アジアにおける地位確保に関連する諸展開

また、目的を円滑に遂行するために次の委員会を置く。

1、本部委員
2、海外駐在員

世界やアジアの中で、日本のハンドボールの位置をどう高めるかが第一の目的であり、激動する国際情勢をどう分析、対応するかが第二の目的である。

そうした中で各分野の方々が、国際的な場所で活躍し、知名度を高める必要があり、IHF・AHF会議等への参加は欠かせない。

また、海外駐在員は各大学、名企業のOBに協力体制づくりの必要性を考えている。

国際委員会は他の委員会と違い、国際担当常務理事を助けるためのプロジェクトチームと考えた方がいいし、国際担当常務理事（国際委員会）は決して翻訳・通訳グループでないことを申し上げ、国際委員会の夢として、世界選手権の日本開催の研究を進めてみたい。

限られた1年の中で、いろいろありますが頑張ります。

# 新理事の抱負

## 企画担当常務理事

### 木野　実



この度企画理事の大役をおおせつかりまして、身の引き締まる思いであります。

しかし、日本協会に課せられたことは、強化と普及、この2本柱をいかに発展させていくかといった点にあり、オリンピック出場の機会を逃した今、しっかり足元を見つめ直す絶好の機会であると感じております。

ハンドボール隆盛のためには、一つには、男女の全日本チームが十分活躍できる体制づくりを、強化、国際、広報、普及、審判等の部門とも連携をとり、全日本チームが真の私たちのチームであるという認識を今まで以上に植えつけることで、協会挙げて各連盟はじめ関係の方々と協力しあって支援できるよう努力していく所存です。

国際化を言われて久しくなりますが、今や欧州からグローバルなハンドボールへと発展し、しかもこの4～5年のアジアの隆盛は目を見張るものがあることはご承知のとおりです。アジア、世界からも取り残されないためにも、協会がアジアでイニシアタイプをとれるよう、3～5年先を見越した事業計画の確率をめざして取り組んでいきたいと思います。

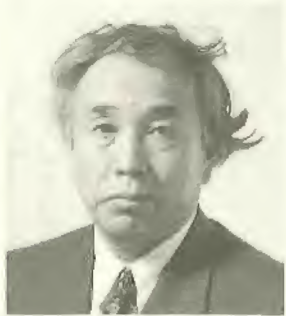
全日本チームが国内において披露する機会が異常に少なく感じていたのは私だけではないと思います。チームも選手も期待されている、応援されているということを選手自身が強く感じ、誇りを持てるよう、そして国内の試合でも多くの観客動員をまず図っていき、いい舞台づくりで選手が人に感動と共感を与えるプレーが生まれ出てくるものと思います。そして、マスコミの方々にもハンドボールの魅力を一層理解していただける第一歩にしていければと思います。

これらのことは全国各都道府県協会や各連盟のご支援、ご協力なくして実現できませんし、日本協会内部の各セクションとのスピーディな連携プレーが一層必要になってきますので、情報の共有化を図りながら前進していきたいと考えます。

未熟で非力ではございますが皆様方のご指導、ご鞭撻をいただきながら協会発展のため頑張っていく所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

## 普及担当常務理事

### 小西　博喜



はじめに前任者・伊藤和夫普及部長が小・中学生普及の推進者として21世紀を目指す将来への布石を打っていただきましたことに深甚の敬意と感謝を申し上げます。

この度微力ながら普及担当の大役をご推薦いただきその責任の重大さを痛感致しております。とりわけ、全国小学生大会は昭和63年、京都国体と同じ年に第1回大会を京都府田辺町で開催して以来、町民の皆様のご理解により本年は5回大会の記念すべきフシ目を迎えました。

とは申しましても、参加数は昨年の第4回大会で男子21府県、女子16府県程度の参加で全都道府県参加までにはほど遠い道のりを感じますが、毎年大きな期待を寄せております。

特に不参加の理由としては、経済的負担が大きいこと、小学生対象の社会体育指導者が少ないことなど地域の特殊性や学校体育との諸事情もかかわった問題が考えられます。したがって、この大会を○○カップ大会に移行する経済的支援方法も具体的に検討される段階に来ているともいえます。

また、全国中体連ハンドボール大会の開催が検討されており、将来への大きな期待がかかっています。

現代っ子の多様化するスポーツ競争社会の中で、スポーツ少年団の育成は容易ではなく、小・中学生登竜門への指導過程でハンドボール指導者のご苦労は並大抵ではありません。

今後、小・中学生の国内普及活動を中心として、さらに指導強化につながる少年少女の育成と普及に重点を置かなければ将来的な選手育成は不可能であります。

そのためにもアジア地域スポーツ交流事業開催に向けた組織体制づくりが必要であろうかと思います。

皆様の永年のご努力によって築きあげられました日本のハンドボール界がメジャースポーツとして認知され、イメージアップするハンドボールに発展しますよう前任者に変わりませぬご理解を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

## 日本リーグ担当常務理事　西村　亮治



第17回を迎える日本リーグもいよいよ6月6日からスタートします。昨年同様一部男子8チーム、女子6チーム、二部男子8チーム、女子6チーム(日本ビクター復帰)による前後期2回総当たりゲームを2月28まで全国51会場で熱戦を繰り広げます。

今回の特徴として、男子一部がプレーオフ制をリーグ史上初めて採用します。リーグ戦総合成績1～3位のチームがプレーオフに参加、まず2位と3位が対戦、その勝者が1位と対戦し、日本リーグの優勝を競います。

これはマスコミ対策の一環として採用するもので、優勝決定戦はテレビで放映される予定です。

また、今回のプレーオフでサドンデス制も試行いたします。第一延長は正規で行い、第二延長は2点連取したチームが勝ちとする方式でかねてより本戦での採用を検討していたものですが、プレーオフで試行することになったものです。

男子は、前回7年ぶり8回目の優勝を遂げた大同特殊鋼を軸に他の7チームも実力伯仲し、戦国模様が予想されます。

また、女子も6チームが全く互角の戦力で、男子同様混戦が予想され、男女とも、目が離せないゲームが展開され大いに盛り上がりが期待されます。

日本リーグ担当6年目になりますが、リーグの活性化、メジャーへの挑戦をスローガンに種々の活動、新機軸を展開してきました。それはそれなりの効果はあったと自負しており、その基盤は整ったと考えております。

第18回以降は、その基盤をもとにさらなる発展を期すべく、メジャーへの本格挑戦を主体に活動していきたいと考えております。

具体的施策として、ホーム&アウェイの拡大、マスコミ対策の強化拡大、ファンサービスの拡充を行っていきます。いずれの施策もリーグ運営委員会のみの努力だけでは達成困難でございます。日本協会の総力、各都道府県協会はじめ関係各位のご協力、加盟チームファンの絶大なるご支援、ご支持が不可欠でございます。

日本リーグは不滅です。一歩一歩着実に邁進してゆく所存でございますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 広報担当常務理事　恩田　健一



最近「異業種間交流」の記事や広告を見かける。企業活動において部、課を超え、あるいは、会社を超えた人的交流を図り、見識、発想の転換を目指すものとされている。要は、今までの一つの枠から飛び出し、外から違う見方のできる人と意見交換、情報交換により発展を目指すことである。

1年前、あるマスコミの方からアイスホッケーとバドミントンの監督を紹介されたのがきっかけとなり、以後、各方面、スポーツ関係の方々との「異業種間交流」を始めた。みなさんのハンドボールに対する意見をまとめると、スピード感があり得点が短時間で入るので目が離せないということで一致していた。

また、観客にとって、反則が理解しづらいこともわかった。この点は、アイスホッケーでの反則の場内アナウンスを参考にできるのではないかとのこと……ETC。

バルセロナ・オリンピックを間近に控えて、「異業種間交流」での話題は、オリンピック関連のことばかり。出場できない悔しさ、残念でしかない思いが、全国のハンドボールファンや関係者から伝えられている。

テレビ、新聞では、毎日のようにバルセロナ関連の記事、ニュースが報道されているが、カヤの外という感じである。オリンピックに出場できなくなった競技には、報道各社の方々の足が何となく遠のくようである。無理もないことだが……。

こんな時こそ「異業種間交流」をもっと盛り上げなければならない。

諸先輩からアドバイスとご支援をいただき、4月より第一歩を踏み出したが、私にはバルセロナ・オリンピックが終わるまでの4ヶ月間がとても長く感じる毎日だが、次のアトランタ・オリンピック出場へ向けて、蒲生、緒方両氏への支援、条件整備が重要である。

任期中、常にハンドボールが1行でも記事に、1秒でも画面にを目指し両氏へ希望を託したい。

今後とも皆様方のご支援と良きアドバイスをよろしくお願い申し上げます。

# 世界選手権大会(Bグループ)に参加して

**前号でもお伝えしましたが、世界選手権大会（Bグループ）に参加した男子ナショナルチームのメンバーが、その遠征の感想文を寄せてくれました。4年後のアトランタ五輪を目ざしてスタートした〝新生全日本〟チームの初の国際大会で得たものはたくさんあったようです。今後の活躍を楽しみに見守りたいと思います。**

## 橋本行弘

私は3度（ソウル、バルセロナ、アトランタ）新生全日本という船出を経験したのですが、どの時もすべて模索の段階からスタートして来たはずなのだが、今回ほどこの言葉がうまくあてはまるチームはないのでしょうか。

百聞は一見(見る)にしかず
百見は一考(考える)にしかず
百考は一行(実行する)にしかず
百行は一効(効果を出す)にしかず
百効は一幸(幸福になる)にしかず

という言葉を私はある一冊の本を通し知ったのですが、公式国際試合0試合からスタートする選手がチームの3分の2以上を占める今の全日本の状態は、まさに百聞は一見にしかずの段階で、見るもの・聞くもの・触れるものの全てが初めてのことばかりだと思うのです。

たとえば、私生活の場に於ても寝食の仕方、言葉の違い、風習、時差、環境などさまざまだし、ゲームに於ても自分より10kg、10cm大きい選手を相手にすることは不断の国内のトレーニングではその場面想定、条件設定をするのは非常に難しく、そういった点に於ても「一見(見る)」という投資は今の全日本にとっての第1歩だったのかもしれません。

さて本題はこの次で、「一見」という貴重な経験をした私たちがどう考え、国内のトレーニングにどう反映し、どう一考（考える）かです。選手個々の感じ方・考え方の違いがさまざまなのは止む得ない話なのですが、せめて全員が4年後を目指し前向きに考えているという形は最低限つくり上げていかなければなりません。そしてどう一行（実行・行動）し、どう一効（効果・結果）を出していくかというにつながっていくのです。

今遠征が長期（27日間）なこともあり、途中何度も細かい約束事や注意事項を忘れてしまう選手がいたり、言いたい事があってもチームの雰囲気を考えて言うタイミングを失ったりしたことなど今遠征での細かい反省項目は、自分自身としてまたチームとしてマトメ（一考）、次回合宿ではその反省項目に基づきトレーニング（一行）して行きたいと思います。

私は、この新生全日本になってからキャップテンという新しい役割を任された訳ですが、まだまだ自信もなく、なお且つ若いチームで力を充分発揮できない現実と、前回のチームではできたのにというギャップに腹を立て、怒るという行動を遠征中何度かとってしまいましたが、「怒る」を「叱る」へ変えていくためにも、今文章を通して自分自信への意識改革と、「それでも俺がチームを引っ張るんだ」という、強い発奮材料へ変えていけたらと考えます。

## 林康一

ナショナルA選手に認定されて最初の国際試合を、自分自身今まで行ったことのないヨーロッパにおいてできたことを心から感謝するとともに、最高の幸福と思いました。しかし、今までアジアのチーム以外試合体験のない自分にとっては、第1戦のオランダチームとの対戦まで不安だらけで、見えないプレッシャーを感じていたことを今でもはっきりと覚えています。その緒戦をスタメンで出場。この試合をきっかけに自分のGKとしての未熟さとナショナル選手であることの尊さを体感することで、本格的に意味のある遠征がスタートすることになったのです。

オランダチームとは3試合行い、結果は3敗。自分も含めメンバーのほとんどが外人の高さ・パワー・スピードといったものに圧倒されて自分の持ち味を出せないままに消化してしまった感じに終りました。しかし次のベルギーチームに対しては、蒲生監督が常に口にしてる「闘争心・点を取れ・体を動かせ」ということを全員で意識して行うことで互角の試合ができました。そして、チームとしても少しづつ外人コンプレックスがなくなり、何とかして勝ちたいという気が強くなっていました。

その後、ハンガリーに移動しクラブチームとナショナルチームそれぞれ2試合ずつ行うことで、世界選手権前の最終調整とし、開催地であるオーストリアへ乗り込みました。

いよいよ大会に突入し、気合を充分に入れ第1戦目の相手である地元オーストリアチームの待つ会場へ向いましたが、そこには対戦チーム以外に観客という想像を遥かに超えた敵がいました。異常なまでの声援で、すぐ近くにいる選手にも声で伝達できないほどでした。このような状況の中でアッという間に試合も終り、またしても新全日本チームとしての課題が増えたわけです。翌日は遠征前から必勝体制で計画立てていたアメリカチームでした。この試合に勝てば日本チームとしては快挙である予選リーグ突破ということで、今までにもまして入念なチェックを行い臨むことで攻守共に安定した展開ができ、1点差で勝つことができました。その後の大会結果は中国に引き分けただけで残りは全敗。1勝5敗1分という成績でした。自分自身このうち2試合をスタメンで計5試合出場しましたが、最初に行ったオランダ戦時と比べ毎試合自分の役割を試合中に冷静に考え、開き直れる精神をもてたことでプレーの波をなくせる力を身につけれたように感じます。しかし、キープ力・指示力という点ではまだまだ学ぶべき課題が多く、ヨーロッパで体感したことを日本で修正し総合的なレベルアップを目指していきたいと思います。

この1ヶ月間近い遠征を通じてあらゆる面で多くのことを学ぶことができました。ハンドボールの

技術面はもちろんですが国として、また多くの応援者により支えられプレーを行っている外国人の意地・プライド・取組み方など。自分たち全日本チームとしてもたくさんのことを吸収できたと思います。そして、これら学んだことを忘れることなく、また忘れないためにも、国内でのトレーニング、試合にナショナル選手としての自覚・誇り・責任をもって活動していきたいと思います。

### 甲斐章義

今回の世界選手権大会（Bグループ）は、新しいメンバーで臨みました。しかも、少ない合宿しか組めず、現地での強化が主体となりました。

まずオランダでオランダナショナルチームを中心としてゲームを行いましたが、高い相手とやるのに慣れていないこともあって、今までトレーニングしてきたことがうまく出せませんでした。しかし、ゲームを重ねるごとに相手も攻めあぐんだり、トレーニングしてきたパターンで点が取れ始め、次第に展開も良くなってきました。

次のハンガリーの合宿では、2試合を行いましたが、ハンガリーナショナルチームとはいいゲームができました。しかし、2試合目は1試合目と天と地ほどの差がありました。その差は、若いチームだけに積極的に立ち向かい、勢いがあるときは攻守ともにいいのですが、消極的なときにイージーなミスが発生します。そこで、本大会に入る前に4つの目標をチームで立てました。

1つは点を取りに行く、2つ目は激しく当たる、3つ目は運動量を増す、4つ目は闘争心を持ってゲームに臨む、ということです。これを行うことによってずいぶんゲーム自体にスピードが出てきました。

本大会に入って、第1試合がホームチームのオーストリアとの対戦でした。この試合は、地元オーストリアを応援する観客の声にのまれていたような気がします。みんな体が動いてなく、やって来たプレーどころか自分のプレーさえもできていませんでした。

しかし、第2戦のアメリカ戦では、技術がどうだという前にみんなが勝ちたいという気持ちが、ミスしたときも前向きで積極的なゲームにできました。その結果、アメリカに勝つことができて準決勝リーグに進出できました。

準決勝リーグでは、スイス、ブルガリアに負けはしましたが、歯が立たなかったということはありませんでした。ゲームを重ねるごとに通用するものしないものがわかってきたと同時に〝世界〟に少しずつ慣れてきました。そして、自信もついてきました。

そして迎えた中国戦では、集中力が持続するようになりました。しかも立ち上がりから良く、声も出ていたし足も動いていました。このことは、1点でもリードしながらゲームを進めていくために出だしは考えていかなくてはいけないということだと思います。これはアップのやり方で出だしにもつながってきます。この日のアップのでは、一人一人体も気持ちもアップからゲームは始まっているという感じのアップでした。結果は引き分けでしたが、いい面が多く出せたゲームだったと思います。

最終戦はポーランドと戦いましたが、大差で負けました。前半はリードしてゲームを進めていたのですが、イージーミスで点をあげてしまった形で敗れました。

今回の遠征は、いい部分も悪い部分もみんな出してきた遠征でした。しかし、今回でみんなも少しでも早く力をつけてまた遠征をしたいと思っていることと思います。

### 魚住和彦

今回の遠征は、新生全日本にとって初めての遠征ということでした。しかも、世界選手権大会（Bグループ）に出場できるという特典付きでもありました。

でもこの大会は、今の全日本にとってはオリンピック予選までのほんの通過点にしか過ぎません。目標ではなかったのです。したがって、オーストリアに入るまでの日程も僕にとっては大変ハードなものでした。

そんな長期にわたる遠征の中でも、得たものは多かったと思います。生活面でも、ハンドボール面にしてもです。

生活面では、自己管理の重要さということを思い知らされました。栄養摂取に関しては、食事が大幅に変わることでバランスが悪くなりがちになります。ですから、なるべく好き嫌いをせず出されたものを食べるようにしなくてはなりません。競技によるケガに対しては、早めの適切な処置が必要だと思いました。あとは、睡眠時間を十分にとることが大切です。

ハンドボールの面では、国際試合の経験があったので驚きはしませんでした。逆に、外人と試合ができるということで、楽しみなくらいでした。

練習もろくにやって来ていないチームが、国際試合でどれだけ戦えるのか不安はありましたが、試合を消化していくうちにチームらしくなってきて、その不安も次第に消えていきました。なかには、相手チームになめられて悔しい思いをしたこともありました。応援に圧倒されて押されるまま引き下がってしまった試合もありました。

悔しい思いがほとんどでしたが、自分として満足できた試合がひとつあります。その試合は、ハンガリーナショナルとの一戦目です。この試合のアップの前、団長の西山先生から話がありました。その話の内容は、昨日までの試合のアップはアップになっていないし、あんな状態では立ち上がり動けるわけがない、もっとアップのときに心拍数を上げるよう心がけなさい、というものでした。その話に同感したのか、その日のアップは、やっていても今日は何かが違うと思えてくる何かがありました。その日以来、選手全員アップの重要性を再認識し、取り組むようになりました。

試合ではもう少し練習しておけば……ということが何回となくありました。やって来たことだけでもと思いプレーしたのですが、思いどおりいったプレーはほとんどありませんでした。失敗だらけでしたけれどもプラス思考で考えると良い経験ができたと思います。

最初に書きましたように、目標はアトランタ・オリンピックの予選です。後ろを振り返ることなく、常に前向きで進んでいきたいと思います。

### 福村正巳

今回のヨーロッパ遠征は、私にとってすべてが初めての体験でした。12時間かけての移動に始まり、長期滞在、そして何より、日の丸

をつけての国際試合、どれをとっても期待と不安で複雑な気持ちでした。そして、昨年12月末に行われたセレクション合宿でAチームに選ばれたこと、また、今回の遠征に参加できたことを光栄に思いました。正直言って、遠征前の2回の合宿で、個人レベルチーム力が向上したとは言えませんが、全国7万人のハンドボーラーの代表であること、日本の代表であることの自覚と責任を持って今回の遠征に参加できたと思います。

まず、オランダに入り、オランダナショナルチームとの親善試合を行いましたが、これから、外国のチームと対戦していくにあたり蒲生監督から三つのことを守って欲しいと話がありました。それは、一、闘争心（当り負けしないこと）、二、とにかく動くこと、そして最後は点を取りにいくこと、これらのことを今後頭に置いていてほしいということでした。そして私たちの緒戦は前半7対16、後半7対9、計14対25と負けてしまいました。多くの課題が残りましたが、それらを一つ一つクリアしていこうとミーティング、トレーニングを繰り返し、その後の試合では、トレーニングしてきた、ディフェンスからの速攻、また、引いて壁で守るディフェンスに対する攻撃などが成功する場面も見られました。トレーニングの成果を出せたときの達成感は、自信につながっていったように思えます。しかし、体力面同様に精神面の弱さも出たように思います。アップでの気持ちのもっていき方、私生活でのあり方、反省すべき点が多くありました。体格の差を身をもって知ったとき、体力、精神力はこれから確実に上げていかなければならないと感じました。

蒲生監督の言われる目標は、4年後にあることを常に頭に置いて、それまでの過程を大事にしていきたいと思います。私は、世界選手権ではエントリーの16名から外れ、これまでにない悔しい思いをしましたが、監督の言われた、目標は4年後、過程を大事にするということを、他のメンバーよりも、自分に言い聞かせることができたと思います。大会の結果は12位に終りましたが、チームにとっても、私にとっても団長の言われた通りスタートだと思います。思うように勝てなかったこと、試合に出れなかったことを忘れずに、トレーニングしていきたいと思います。また、日の丸をつけて大観衆の前でプレーできることに感謝したいと思います。そして、この気持ちを4年後に必ず味わえるように頑張ります。

## 梅基幸一

今回、初めて全日本の一員に選ばれ、不安ばかりの気持ちでこのヨーロッパ遠征に出発しました。若いチームにあって年齢的に上であったので、良い意味での〝自分のやりたいように〟というつもりで臨みました。

オランダでは寒くもなく、コンディション的には最高の状態で出来ました。オランダナショナルとの3試合ではすべて負けてしまいましたが、1試合1試合問題点が出て、課題が出たことだけでも大きな収穫になりました。ゲーム中のことから私生活に関することなどクリヤーしていこうと、前向きに取り組めました。

生活面で、スポーツセンターに泊ったわけですが、宿泊施設も完備され、国家が営んでいるすばらしい環境があることに驚きました。日本でも最近は変ってきましたが、まだまだスポーツに対する社会的な考え方を変えていかなければならないのではと思いました。

いよいよオーストリアへ入り、本大会である世界選手権B大会が始まりました。緒戦のオーストリア戦ですが、地元ということもあり、体育館全体がオーストリアの応援で、ゲーム中なんかは、顔を近づけなければ大声を出しても聞こえないほどで、本場の人気をあらためて感じました。

この遠征では、全部で15試合しましたが、応援のすごさが大変印象に残っています。すばらしいプレーをしたり、ケガをしても立ち上がれば暖い拍手が送られるのです。これこそ、スポーツマンシップではと思いました、ゲームの手ごたえとしては、敗れた試合でも蒲生監督の言われた〝闘争心〟、〝動く〟、〝狙う〟ということと、自分たちがやれることをやり切れば決して通用しない相手ではないということを感じました。

これからの多くの課題が出て、4年後の自分たちの目標である『アトランタ』への第1歩として、負けたときの悔やしさを忘れず、一つ一つをクリヤーしていきたいと思います。

最後に、ハンガリー、オーストリアでお世話して下さったエディナさんやウーリーさん、そして他のみなさんに感謝いたします。

## 末岡政広

12月末に選考合宿を行い、わずか2回の合宿しかできず世界選手権B大会に挑戦することになりました。出発する前から我々全日本はどれぐらいの力を持っているのか、私のハンドボールがどれぐらい通用するのだろうかと興味津津でした。

3月5日、成田からアムステルダムへ出発の日が来た。私にとっては初めてのヨーロッパ遠征で落ち着きがなかったことを今でも覚えています。



オランダに着いて、次の日から早速、試合が組まれていました。対戦相手はオランダナショナルで、オランダとは計3試合行いました。

私には外人と試合した経験がほんのわずかしかないため、どうしていいのかわからないまま3試合消化してしまったと言う感じです。

しかし、ベルギーナショナル、ハンガリーナショナルと試合を行うたびに、チームもまとまり出して、ムードも良くなって来て、それにつられて自分の持ち味を発揮するようになりました。

世界選手権B大会が始まり、ヨーロッパのハンドボール人気が、私がイメージしていたよりもはるかに上回っていました。対オーストリア戦に関しては、攻撃の指示を出しているのに指示の伝達ができなかったほどの大声援であり、異常に思えるぐらいの応援でした。今まで経験した声援に比べたら、日本の応援は静かなぐらいです。こういった大声援の中でプレーができたのは、とてもすばらしい経験をしたと思っています。

この海外遠征で得たものが多く、技術面、精神面、体力面において、一流選手になるとすべての面において優れ、一つ一つのプレーに余裕が感じられます。もちろん、そのチームのゲームメイクを任されている、私も、全日本ではセンターをやっているので、ゲームメイクをするのですが、まだベンチから指示を受けてからコートで実行するというケースがほとんどで、相手DFに応じて、どんなプレーが通用するのか判断することが、監督・コーチよりワンテンポ遅い。そういった判断能力を養うために、試合観戦の時は私と同じポジションの人あるいは、ゲームメイクをしている人に注目していました。今はまだ、監督に攻撃の指示を教えてもらっていますが、もっと経験を積んで、私が一人でゲームメイクができるように勉強、トレーニングしていくつもりです。

それと、技術面においては、フィンランドの3番のプレーが一番印象強く、いつでもシュートが打てる体勢を取っているし、そのようにもっていっています。相手に押されても、体勢を整えてスピードボールを打つことができます。こういうことは、強靭な筋力が必要とされます。やはり、日本人は外人と比べると筋力が劣っているので、全日本のメンバー全員が筋力アップを図らなければ、今のままで試合をやっても世界のトップチームには勝てないと思います。

今回の海外遠征は、いろんな強勉になりましたし、これからの新たな目標ができました。この経験がムダにならないように、自分のチームに帰っても努力を続け、次回の遠征・合宿に、一段とパワーアップして臨むつもりです。

## 田中　茂

新生全日本がスタートして初の国外合宿及び世界選手権B大会が3月5日から約1ヶ月間という長期にわたりありました。

国内での合宿も数少なく、ほとんどの選手が国際試合が初めてといったように若いメンバーで合宿、本大会と臨みました。

新生全日本としてスタートしてこの1ヶ月チームの約束事などを決め、現在の自分たちの力量と共に外国のレベル、新しいことの吸収と常に前に向かって前進しました。

チームの約束事として今後も重要な3つの目標が上げられました。

(1)闘争心
(2)みんなで動く
(3)がむしゃらに点を取りにいく

この目標を頭に入れ試合に臨みました。

試合では、やはり練習不足もありますが、外国チームの高さ、パワーに圧倒された所がありました。しかし、DFでもOFでも全日本チームも随所にスピード豊かなプレーを見せ、全日本が目指すスピーディなチームができてきました。

メンバーも若いだけに練習や試合を行なっていけばいくほど新しいことを吸収して大きくなっていったと思います。

外国チームの力量も今回の遠征でみんながつかみました。絶対に自分たちも同じレベルでまたそれ以上のレベルで戦うことができると感じたはずです。

私なりに、今からの自分の努力、経験を積んでいけば、今までにない個性豊かな、スピーディなチームができ上がると思います。

今回の遠征でいろいろと学んだことの1つに、「勝つことの難かしさ」「勝つことの厳しさ」「勝つことの楽しさ」「勝つことのうれしさ」などを学びました。

試合を通して、現在の自分たちの力量、精神的な面など一人一人がわかったと思います。

今後の課題として、目標をはっきりとみすえて練習をすること、もっともっと経験を積むことが今の若い全日本チームには必要ではないかと思います。

今回の遠征で学んだり、得たものはたくさんあります。これは今後の活動に生かしていきたいと思います。

## 河合　哲

この選手権に出場するにあたって、自分はまだ、何回かヨーロッパなどの外国人選手と試合をしていたので、気持ち的には楽だと思っていましたが、いざヨーロッパに着き、選手権前のオランダ、ベルギー、ハンガリーでの試合は、自分の気持ちを裏返すような、身体的にも、体力的にもかなりのダメージを受けました。全日本の選手として国を代表するたいへんさを身を持って感じると共に、自覚もだんだん芽生えてきました。

最初のオランダでの試合から始まり、なかなか1勝目をあげることができず、また、体の疲労もたまってきて、1勝目が遠くに見え、

勝つことの厳さを感じていました。また、勝てそうな試合もいくつも落としてしまいました。3回の合宿はしたものの、選抜チームでの合わせの練習が十分できていなかったせいもあり、せり合いの試合ではどうしても最後に離なされてしまう結果が多かったように思います。

いざオーストリアに入り、選手権本番前は疲れもありましたが、チームとしては外人相手の試合にもだんだん慣れ、いい状態で入ることができたと思います。緒戦のオーストリア戦は、地元ということもあり、自分たちの思いどうりのプレーができず負けてしまいました。このダメージが残るのが心配でしたが、思ったより残らず次の試合に入ることができました。ミーティングにおいても、話の内容も多くなり、充実していました。

この選手権で一番に思ったのが、どの試合でも、波があるのですが、いい時の波が短かい気がしました。守れているときは守れるのですが、いったんくずれると、立て直しがなかなかできない、また、1回やられた攻撃を再びやられてしまう、声がなくなると、ムードが全く悪くなってしまう、など、大くの課題を残す遠征とはなりましたが、これからが楽しみであるところも多々あると思います。

自分は、今からは技術面はさておき、体力面に重点を置いてもう一度スタートからがんばりたいと思います。

## 土屋幸司

今回、初めて全日本チームの一員としての遠征ということで不安でしたが、海外へは自分たちのチームで何回か行っていたので、多少は不安もやわらいではいました。しかし、ケガをしていて、海外へ出てから初めてためしで動くということもあり、大変不安でした。

オランダ入りして、練習してみて、足の感触がすごく楽だったので、これはいけると思いホッとしました。これからは、みんなと練習や試合ができると思いました。心がワクワクしてきて、もう絶対にケガはしないぞと心に誓い、一生懸命やろうという気持ちが次第に高まってきました。

最初の国際試合に当たるオランダナショナルチームとの試合では、全員登録されたので、出れるチャンスがあれば思いきりアピールしてやるとすごくファイトが湧いてきました。

1試合目は出ることができませんでしたが、2試合目は先発で出れることになり、ミーティングで話し合ったことは何が何でも守っていく気持ちで臨みました。しかし、いざ試合になってみますと、約束事の隣のディフェンスの壁づくりに対してできていなかったし、サイドとの一対一がアウトにオーバーフェイントで抜かれてディフェンスが全然できていませんでした。速攻で2点取ったものの途中で変えられてしまい、何となく自分にしっくりいかず反省することばかり残ってしまいました。

これからの練習で何とかカバーしていければいいなと思ったのですが、ケガをしていたときの練習不足のつけが回ってきたかのように足が動かず、周りの状態が全然見えなくなって、声も出せずあせりの状態ばかりになってしまいました。

そんな状態でハンガリーに入りましたが、自分の体が急に変になってしまい、3日間も最悪な事態になってしまい、自己管理についてももっともっとしっかりしなくてはいけないと気づきました。

オーストリアに入り、いよいよ本戦の世界選手権大会になりました。みんな今までやってきたことの総決算として思いきり戦おうという気持ちで臨みました。1試合目の地元オーストリア戦では、会場の雰囲気に完全にのみ込まれてしまい、全くいいところがないまま負けました。予選リーグのアメリカ戦で劇的な勝利を収めました。初めての国際試合での1勝で、すごく心に残る試合でした。準決勝リーグに入って、中国に引き分けたものの、他の試合は良い試合はするものの負けてしまい、順位決定戦でも負けてしまった。この悔しさをいつまでも忘れずに心にしまっておき、良かったところはもっともっと伸ばしていきたいと思います。

自分は、全試合に出場して1点も取れていないので、次は絶対に取りにいきたいと思います。今回の遠征では、いろいろな面で勉強になったことがたくさんありました。

## 藤井孝志

自分はナショナルの選考合宿の結果よりBチームとして選抜されましたが、今回の3月4～29日までの世界選手権Bグループ大会とヨーロッパ遠征に行かせていただけてとても光栄に思っています。

オーストリアの世界選手権Bグループ大会に入る前に、オランダ、ベルギー、ハンガリーの3ヶ国で計8試合のトレーニングマッチを行いました。この8試合の中で新生全日本として唯一の初勝利の試合は、ハンガリーチームと対戦したときで、はじめは相手チームに押されていましたが、ちょっとした1本のシュートからこちらのムードになり、そのムードを利用して選手全員が一つになることができたので勝利を得られたと思われます。その他の試合でも勝てそうな試合がありましたが、試合をしていて何かが足りなかったために

負けてしまったのだと思います。
自分はBチームだったために、試合に出場する機会がほとんどないのではないかと思いましたが、8試合すべて出場することができました。45度ディフェンスとして出場しましたが、最初は相手にどのくらいの強さで当たったり、押したりしてよいのかわからなかったが、試合を増すごとに少しずつ感覚がつかめたような気がしました。
3月19日からオーストリアの本大会に入ったわけですが、予選リーグの1試合目の対戦相手がオーストリアということもあり、かなり不安がありました。試合は少し一方的になってしまいました。3試合目のアメリカには、勝ったのですが、最後のノータイムペナルティーがゴールポストに当たりホッとしました。準決勝リーグと順位決定で4試合を全力で戦いました。今回のB大会とヨーロッパ遠征を経験し、自分にとっていろいろと学ぶことが多くありました。外人と試合をし、自分は筋力がないことがわかりました。この経験をこれからの練習に生かしていけるように頑張っていきたいと思います。

## 佐藤壮一郎

私は、海外遠征は韓国しか行ったことがなく、全日本で世界選手権（Bグループ）大会のためヨーロッパに行けることを知り、期待に胸をふくらませていました。出発前に大学の先生や仲間が激励してくれましたので、何か一つでも私にとってプラス材料を持って帰国できるようにと心に誓い、成田空港から出発しました。
オランダに着いて、午後から時差ボケをなくすために練習でとにかく体を動かしました。私が思っているほど時差はなくて安心しました。翌日の夜、オランダナショナルチームとの交流試合のためにバスでスポーツホールまで移動しました。
試合を行う前に、チームの三つの基本方針を決めました。一つ、当たり負けをしないこと（闘志）、一つ、とにかく体を動かす（運動力）、一つ、がむしゃらに点をとりにいく（シュートを狙う）。これらが蒲生監督から選手への約束でした。私は元気があるので全日本選手になれたと思っていますので、とにかく外国人に体当たりしていこうと思いました。第1戦は、負けはしましたが思ったほど外国人パワーは感じませんでした。2戦目は、パワーをまじまじと感じさせられました。ポストでボールをもらってシュートを打ったらカットされるは、ディフェンスの下を走ろうとしても反則され、つかまれたりして走れなかったり、ディフェンスでは相手との1対1で押し込まれたり、フォローに行っても吹き飛ばされるし、基礎体力のなさと、追試などでベストコンディションでなかったことを反省しました。
私は全日本の一員としての責任感が足りなかったのでは……。ゲームの前にスタッフから、このような恵まれた状況の中でゲームができるのはごく一部しかいないことを聞かされて、全日本としての1試合の重みを教えられ、出発前とは大きく私の気持ちが変わり、いい加減なことはできないと思いました。
世界選手権大会になってからは、一度しかユニフォームを着れませんでしたが、アップのときに元気を出して盛り上げたり、他のチームの研究やスタンドでの応援も自覚をもってできるようになりました。ヨーロッパへ来てたくさんのナショナルチームと対戦しましたが、雲の上の存在とは感じませんでした。私も計画的にトレーニングをやり、体重を増やしても今のスピードで動ければ、十分に対応できると身をもってわかりました。
日本人と外国人の差は、パワーだけだと思いがちですが、他にもあると思います。私は、プロフェッショナルとアマチュアの違いだと実感しました。他の国のナショナルプレーヤーは、一本のパスやシュートに自分や家族の生活がかかっているので、ハングリー精神を持っていると感じました。しかし、我々も毎試合かつつもりで戦っているのに、なぜだろう、やはり窮鼠猫をかむという話があるが、それなのだろうか。私は金銭だけでない、ハンドボールに対するプロフェッショナルに我々がなることが世界に近づけることだと思います。

## 田中　潤

この遠征に参加するにあたって、出発する前に自分で目標を立てて遠征に参加しました。その目標は、試合に出場したら、自分の持ち味である速攻で走りまわるということです。
しかし、オランダでの試合は、自分のミスで体調を整えることができず、試合に出場できずに終りました。そして、ベルギー戦から試合で使っていただき、その後も最後の試合まで使っていただき、いろいろ勉強になりました。その中での感想は、まずディフェンスです。自分の一番の課題であるディフェンスの甘さがもろに出たと思いました。一番できなかったのが45度のアウト割りに対するかけひきです。寄らなくてもいいときに寄ったり、抜かれてきているのに寄れなかったりと、うまくいかなかったことばかりでした。
一対一対で抜かれる場面もたくさんありました。ディフェンスで守れないと、自分の目標である速攻にも出ることができないので、日頃の練習でも、日本人ではなく外国人とやっていることを頭に入れて取り組みたいと思います。
攻撃では、通用するプレーもいくつかあったと思いました。八の型からの真下のポストなどは結構走れる場面が多かったように思います。股下のパスなどは、外人相手でも十分通ると思いました。自分が恐れてパスできなかった場面が多かったので、もっとパスの練習をしていくつもりです。それ以外では、自分がポストに入ってダブルポストに入った場合に十分な位置がとれなかったので、ポストに入る練習も必要だと感じました。
しかし、シュートに関しては、自分の思ったよりよくシュートが入ったのは自分自身自信がつきました。走りこめて自分の間合でシュートが打てると、結構入るものだと思いました。しかし、スピードのないシュートや変化しないで単発で打ったシュートは、必ずディフェンスの腕に当たるか、キーパーに止められるかでした。これからの練習では、常に自分の間合でプレーしてシュート確率を上げるようにこころがけます。
最後に、速攻という点では、うまく継げば十分通用すると思います。速攻で点が取れているときはチームのムードもよく、ディフェンスのリズムもいいと思いました。
全体の感想としては、決して勝

てない相手ではないというのが一番感じたことです。

## 宇多村誠

私たち選手団は、世界選手権Bに参加するために3月5日成田を旅立ちました。6日から試合のため飛行機の中では寝ている人がたくさんいました。着いてすぐ練習をやりました。ほとんどの人の体が動いていなかったように思えました。明日は、こっちに来て最初の試合(オランダ)戦ということでミーティングをやったけど、どんな選手がいるのか全くわかりませんでした。それから3日間、オランダナショナルチームとやりましたが全敗、みんな驚いた表情でした。

それからベルギーチーム、ハンガリーで4位のクラブチームとやりました。結果はまずまずの所でした。そして3月14日、ハンガリー6位のクラブチームとやりました。自分はメンバーの中に入り出場させてもらい前半は出なかったもの、後半になって出て立て続けにロングを2本決めました。その時チームが負けていたので、自分が決めてチームを明るくさせれば、絶対に勝つという心構えを持っていたということ。そして2点差で勝ち勝利を手にしましたが内容もけっこう良かったように思えました。

そして、ハンガリーナショナルチームと試合をしました。圧倒的な強さを見せつけられましたが、こういう強いチームと試合をやれば、それだけ力がつき、世界選手権ではいい成績が取れると思いました。予選グループは、オーストリア、アメリカ、フィンランドでした。特にオーストリア戦、会場の観客は3千人ぐらいで、日本の応援というものは一人もいませんでした。試合やってる最中、フォーメーションの指示を出そうとしたけど会場がうるさくて結局は何もできず負けてしまったこと。

そして、アメリカに1点差で勝ち予選グループを通ったこと、これは今まで全日本でもなかったという話がありました。準決勝リーグ3試合行いました。その中でブルガリア戦は試合を捨てたみたいでした。後半残り何分かしりません、速攻のパスミスから相手に得点されたということです。中国戦は辛くも引き分けでした。最後、順位決定戦はポーランド。全日本は、前半最初は良かったのですが、中盤に入ってからは得点できず負けてしまいました。

結局世界選手権は12位。みんな、そして初めて参加した自分も良くやったと思います。目標は、アトランタ・オリンピック。それまで数々の試合があるけれど気を引きしめて最初から出直しです。それまで特に体の方をつくっていきたいと思う次第です。

## 岩本政典

自分は大学の試験のため3月5日に出発できず14日から遠征に参加することになりました。15日にハンガリーで全日本と合流したわけですが、みんな空港まで出迎えてくれてうれしかったのですが、顔を合わせた時〝疲れているなぁ〟と感じました。長旅や連戦でみんな疲れているけど少しでも自分が役に立てればという気持ちになりました。今年になってできた全日本で、言ってみれば、ただの寄せ集めのチームでどこまでやれるかという不安もありました。

3月16日からハンガリーでナショナルチームと2試合やりました。第1戦目、負けはしましたが思った以上にムードは悪くないなあと感じました。そして、自分は後から来て2試合しかやってないし、フォーメーションも全くわからないし、自分のプレーはできないし、19日からの世界選手権は試合に出るのは無理かなと思っていました。しかし試合に出ていくうちに少しでも足を引っ張らないように、1点でも多く取らなければと思うのですが、思えば思うほどはまっていきました。

予選リーグ第1戦は地元オーストリアで、初めて味わう世界選手権という何か得体の知れないものにおそわれ、気がついた時には試合は終ってました。そうやって右も左もわからないまま時間だけが過ぎ、予選リーグ、フィンランド、アメリカと終え、アメリカにやっと勝つことができました。これで準決勝リーグに進めたわけですが、自分の心ば曇っていました。それは自分のプレーができなかったからです。大学でやっていることがまるでできなかったし、簡単なミスはするし、相手が外人だからと言えばそれまでですがどうしてもわかりませんでした。

そして準決勝リーグに入ったわけですが、自分の気持ちは予選リーグで乗ることができませんでした。一つ勝てば順位が2つ上がるとわかっていながら自分のプレーはできない、チームは勝てないという始末でした。準決勝リーグ最終戦は中国で、同じアジアということで今まで以上に勝ち気でした。良いゲームができ、引き分けましたが、引き分けは引き分け、アジアのナンバーワンになるためにも1点でもいいから勝ちたかったです。これで11位、12位決定戦に進み、ポーランドとやったけど負けて結局12位でした。スタッフは数年来順位決定に出たことはなかったと言いますが、中国が上にいるというのもむかつくけど試合は勝負事、自分のプレーができ、勝ちたかったです。

# トップレフェリークリニックに参加して

後藤　登／島田房二

昨年秋の広島でのアジア選手権では、残念ながら日本の男女チームは韓国に敗れ、バルセロナ・オリンピックの出場はなくなってしまいました。

その時、我々審判界もオリンピックの道が閉ざされたと思いました。なぜならば、1989年のデンマークにおける世界B女子選手権の後PRCのエリアス氏から「技術的には問題がないが、チームがAの選手権の出場権を得られなかったので、残念だがAの選手権に呼ぶことはできない」と言われたことを思い出したからです。

私たちは、広島での選手権にエリアス氏が来日されるのを聞き、審判にもオリンピックの道が開けると思い、他の国の審判に負けないように頑張ろうと話し合いました。

しかし、オリンピックの出場権が取れなかったことにより、「また、韓国に先を越されるな」と悔しい思いをしていました。

しかし、思いもかけず3月のはじめ、1992のオリンピックゲームのためのレフェリークリニックに招待するという手紙をもらい、その中に私たちが目標にしていたデンマークのクリステンセン・ヨンゲンセンやユーゴのシュテファン・ヘルベルトの名前と一緒に後藤・島田の名前を見付けたときは、日本の審判もやっと世界の仲間入りができたなと感激しました。これも、今までの諸先輩の努力と、広島でのアジア大会に出場した岡本・清水と川島・森の両ペアを含め日本の審判員が、忠実にPRCからの伝達を守って審判技術を研いてきた結果だと思っております。

クリニックへの参加が決まってから、私たちは英文のルールブックの見直しや試験問題の検討、さらに技術確認のため、関東学連リーグの審判等、あわただしい出発前の準備でした。

4月25日にスペイン・マドリッドに到着し、26日午前中から3試合の実技試験、午後は午前中の試合の反省と講習。翌日からは午前中（9時から1時まで）国立の体育大学でのペーパー試験と講習。午後は3時30分出発の5時頃から3試合の実技試験という全く休む暇のないクリニックでした。

私たちの実技試験は、2日目の第一試合でドイツ対アメリカの試合を担当し、試合前に二人で確認したことは「はっきりとした事実を正確に判定しよう。方向指示をダイレクトに。ふだんのとおりの笛を吹こう」等もっとも基本的なことだけでした。

試合は無事終了し、満足とは言えないが、今の自分たちの力は出せたのではないかなと思います。

終了後、すぐにユーゴのステファン（中国のアジア選手権で知った）が握手をしながら「良かった、選ばれるよ」と言ってくれたこと、デンマークのクリステンセンが「広島より上手になっている。小さい問題はあるが、試合全体はよくコントロールされていた」とアドバイスをしてくれて大変有難く思いました。

4日目の午前中にクーパーテストがあり、私たちは11分で問題なく走れましたが、3人が2200mを走れずに2日後に再テストで合格。フランスの一人は、足の状態が悪いということで走りませんでしたが、5月に行なわれるフランス国際大会中にPRCメンバー立ち会いのもとにテストをするそうです。



後藤　登氏



島田房二氏

クーパーテストとペーパーテストの基準は以下のとおりです。

◇クーパーテスト

| | |
|---|---|
| 2400m | 10ポイント |
| 2300m | 8ポイント |
| 2200m | 6ポイント |
| 以下 | OUT |

◇ペーパーテスト

| | |
|---|---|
| 30点 | 15ポイント |
| 29点 | 13ポイント |
| 28点 | 12ポイント |
| 27点 | 11ポイント |
| 26点 | 10ポイント |
| 25点 | 9ポイント |
| 24点 | 8ポイント |
| 23点以下 | OUT |

最終日の講習が終わりすべての日程を消化したのちエリアス氏が「今日の9時にバルセロナの審判を発表する」と言ったときは、緊張しました。9時までの2時間は何とも言えない緊張の連続でした。全員が食堂に揃っているところへPRCのメンバーが入場し、アルファベット順にオリンピック参加のノミネート国を読み上げられ、JAPANと言われたときは思わず二人して身震いをしてしまいました。そのときのデンマーク、ユーゴ、ドイツの人たちの私たちを見る目は本当に喜んでくれていました。アメリカは辞退し、アルゼンチンは経済的理由で断わるというヨーロッパ以外の審判が少ないという好条件はありましたが、過去にA選手権やオリンピックに参加している審判員と同じ場で審査されたことは、大変有意義な経験となりました。

残念ながら第一補欠になってしまったチェコの審判員が、涙をためながらも握手を求めてきたときには、これからの責任を痛感しました。

尚、参加国は○ベルギー、ブルガリア、○デンマーク、エジプト、○スペイン、○フランス、○ドイツ、オランダ、ハンガリー、アイスランド、○日本、○リトアニア・独立国家共同体、ルクセンブルグ、○ノルウェー、○ポーランド、○スウェーデン、○スイス、チェコスロバキア、○ユーゴスラビアである（○印はオリンピック出場）。

最後になりましたが、出発に際し日本協会の皆様はじめ、諸先輩の暖かいご援助とご芳志に対しお礼申し上げます。また、我々のために献身的なご指導をいただきました大塚審判長に感謝し、トップレフェリークリニックの経過報告とさせていただきます。

尚、クリニックの具体的内容は後日審判委員会に報告させていただきます。

# 埼玉県高校選抜台湾遠征報告

遠藤健次



この遠征中には、台湾協会の温先生、林先生をはじめとする大勢の役員の方々と時間を割き深夜まで多くの話し合いをもてたことは大きな収穫といえよう。

多忙な中、私どもの遠征に協力いただきました台湾協会の方々に心より感謝申し上げる次第である。

資金、日程等問題もあるが、若い芽を伸ばし、心も体も豊かなたくましい生徒の育成の一助となればと願い、常に前向きに努力をしていく所存である。

◇遠征メンバー

団長　遠藤　健次
副団長　上久保重次
総務　岩本　明
　山田　克彦
　土屋　雅男
　栗加　正
　渡辺　和弘

〈男子チーム〉

監督　田中　英俊
コーチ　池田　勝
選手
1　諸橋　英幸(浦和学院)
12　石丸　雅章(浦和実)
16　古田　隆(川口北)
2　須藤　武志(浦和学院)
3　須藤　良彦(浦和学院)
4　大邑　正晃(浦和学院)
5　小山　宏樹(浦和学院)
6　北川　茂雄(浦和学院)
7　山口　喜也(浦和実)
8　佐々原博之(川口北)
9　藤井　忍(農大三)
10　川部　義一(埼玉東)
11　宮崎　武彦(浦和南)
13　柳沢　大介(川口青陵)
14　長原　光彦(浦和西)

〈女子チーム〉

監督　宮崎　昭
コーチ　小林　一夫
選手
1　伊藤みゆき(浦和実)
12　末吉　和子(埼玉栄)
2　石田佳代子(浦和実)
3　川上　三佳(浦和実)
4　瀬戸　純子(浦和実)
5　柏倉　美樹(川口青陵)
6　中村亜由美(川口青陵)
7　山崎　俊子(埼玉栄)
8　吉田　友美(埼玉栄)
9　井口　佳子(伊奈総合)
10　江連　千絵(伊奈総合)
11　長谷川深雪(小松原女)
13　蓮沼　昭美(小松原女)
14　五十嵐祐子(西武台)
15　貳又　千英(浦和市立)

◇試合結果

〈男子〉

埼玉選抜 22 (14－10, 8－15) 25 台中体育専科学校
埼玉選抜 25 (15－14, 10－18) 32 大甲高校
埼玉選抜 32 (13－13, 19－12) 25 稲江商業高校
埼玉選抜 27 (12－15, 15－9) 24 台北体育専科学校

〈女子〉

埼玉選抜 15 (7－5, 8－8) 13 台中体育専科学校
埼玉選抜 18 (3－7, 15－10) 17 敬用商工高校
埼玉選抜 20 (8－11, 12－9) 20 台北体育専科学校
埼玉選抜 27 (15－12, 12－6) 18 基隆女子高校

# 公認コーチ(ハンドボール・C級コーチ)養成講習会要項

ハンドボールの発展を考えるとき、指導者の育成は重要かつ急務のこととなっております。現在の、あるいは将来のハンドボールのリーダーを育てる意味において各都道府県で1名受講していただきますようお願い申し上げます。概略は次のとおりです。

**1．講習内容（資格取得のための教科）**

◎共通教科　（財）日本体育協会

　スポーツ一般の心理学、医学、トレーニング科学、指導理論等

◎専門教科　（財）日本ハンドボール協会

　ハンドボールの技術、戦術、体力、指導法に関する理論と実践

**2．講習会の日程**

◎共通教科（体育系大学卒業生は免除措置があります）

◇集合教育（スクーリング）

　原則として所属ブロックで受講するが、日程の都合により他会場を選択しても良い

| | | |
|---|---|---|
| 〔前期〕 | 9月11日（金）～15日（火） | 田沢湖青少年 |
| | 9月19日（土）～23日（水） | 南紀青少年 |
| | 9月24日（木）～28日（月） | 湯布院青少年 |
| 〔後期〕 | 2月10日（水）～14日（日） | 田沢湖青少年 |
| | 2月5日（金）～9日（火） | 南紀青少年 |
| | 1月14日（木）～18日（月） | 湯布院青少年 |

◇通信教育　10月から12月　3ヶ月

◎専門教科

◇集合教育　平成4年7月22日（水）～28日（火）

◇場　所　東京オリンピック記念青少年総合センター

受講有効期限は3年とし、その間に共通科目、専門科目を終了すること期限内未修了者は受講者としての権利を喪失する。

**3．推薦の対象**

3－1　年齢制限　22歳以上

都道府県協会推薦

3－2　都道府県協会の指導的立場の指導者

3－3　都道府県協会で推薦できる若手の指導者

日本協会推薦

3－4　強化部スタッフ

3－5　日本リーグスタッフ

3－6　ナショナルスタッフ

3－7　その他

**4．募集人員**

約50名

**5．経費**

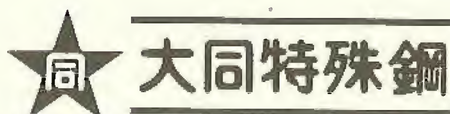
5－1　講習会参加費用（共通教科：18,000円、専門教科：20,000円）

5－2　共通教科、専門教科の集合教育の宿泊費については補助する。

# もっと大きな声で
# 夢を語りあいたいな

夢を語るときの瞳は、
いつもキラキラ輝いています。
夢を、未来を、カタチに変える、
そんな新時代への冒険心を
大同特殊鋼は大切にしたいと思います。
夢を語りあいたい……あなたと。

"With You"




本　社　〒460 名古屋市中区錦 1－11－18（興銀ビル）
TEL (052) 201－5111
支　社　東京　／　支店　大阪

---

# スーパーシュートを見せてほしい。

**踏み付け部エッジの傾斜が、スパイラルソールが、そしてαゲルが、果敢な攻撃を可能にする。**



品名 **スカイハンド®ジャパンα-S** 品番 **THH711**
メーカー希望小売価格 **¥16,000**（消費税抜き）
カラー／■ホワイト×Ⓦレッド・マリンブルー ■ホワイト×Ⓦマリンブルー・レッド
サイズ／22.5～29.0cm

αGEL




アシックスは
オリンピックキャンペーンの
オフィシャルスポンサーです。

asics
ATHLETIC SHOES

株式会社アシックス　■商品についてのお問い合わせは株式会社アシックス消費者相談室までどうぞ。〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL(078)303-2233(専用)・(078)303-3333(大代表)
〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL (03) 3624-1814(専用)・(03)3624-2221(大代表) ■®は㈱アシックスの登録商標です。

# 各地の大会結果から

## 関東

### 東京都高校新人大会

（日程、場所不明）

〈男子〉

▼予選リーグ

○あブロック
開成 35－4 紅葉川
開成 29－7 荻窪
荻窪 21－20 紅葉川

○いブロック
清瀬 17－14 府中西

○うブロック
世田谷工 28－17 大崎
世田谷工 23－21 修徳
修徳 25－8 大崎

○えブロック
砂川 11－9 武蔵野北
砂川 14－13 久留米
久留米 22－6 武蔵野北

○おブロック
筑波大駒場 17－14 日大二
筑波大駒場 24－13 本所
日大三 27－25 本所

○かブロック
東村山 12－12 久留米西
東村山 22－6 田無
田無 15－14 久留米西

○きブロック
城西 20－9 佼成
城西 37－3 大森東
佼成 32－7 大森東

○くブロック
日野台 棄権 秋留台
日野台 23－12 科技学園
科技学園 棄権 秋留台

○けブロック
葛飾野 26－8 北園
葛飾野 27－13 東
北園 26－7 東

○こブロック
武蔵村山東 20－17 南平
武蔵村山東 19－15 保谷
南平 16－14 保谷

○さブロック
早実 22－7 篠崎
早実 棄権 深川
篠崎 棄権 深川

○しブロック
片倉 33－16 東海大菅生
片倉 40－19 山崎
東海大菅生 22－7 山崎

○すブロック
新宿 22－15 学大付
新宿 24－12 駒大
学大付 18－10 駒大

○せブロック
東大和南 21－8 調布北
東大和南 27－14 富士森
富士森 9－8 調布北

○そブロック
上野 11－11 目黒
上野 27－5 武蔵丘
目黒 24－11 武蔵丘

○たブロック
府中 45－5 忠生
府中 32－8 日野
日野 20－11 忠生

○ちブロック
青山学院 12－8 江北
青山学院 23－9 大泉
江北 18－18 大泉

○つブロック
神代 28－12 東大和
神代 21－16 錦城
東大和 20－18 錦城

○てブロック
早大学院 35－3 杉並
早大学院 16－10 駒込
駒込 20－10 杉並

○とブロック
府中東 25－7 小平
府中東 18－3 武蔵
武蔵 15－12 小平

○なブロック
永山 28－17 桜美林
永山 16－12 小平南
小平南 19－11 桜美林

○にブロック
農大一 20－6 光丘
農大一 29－6 豊多摩
光丘 13－8 豊多摩

○ぬブロック
国立 29－4 創価
国立 棄権 武蔵村山
創価 棄権 武蔵村山

○ねブロック
石神井 18－10 武工大附
石神井 23－6 広尾
武工大附 18－13 広尾

○のブロック
羽村 21－10 田無工
羽村 21－11 館
館 38－13 田無工

○はブロック
安田学園 25－3 巣鴨
安田学園 棄権 白鴎
巣鴨 棄権 白鴎

○ひブロック
井草 22－11 桜水商
井草 棄権 南
桜水商 棄権 南

○ふブロック
中大附 16－5 昭和一
中大附 19－15 福生
福生 20－9 昭和一

○へブロック
江戸川 15－14 青山
江戸川 16－8 蒲田
青山 18－17 蒲田

○ほブロック
南野 27－4 南多摩
南野 41－10 北多摩
南多摩 15－13 北多摩

○まブロック
小岩 27－8 富士
小岩 24－9 墨田川
墨田川 25－7 富士

○みブロック
八王子東 23－12 小金井北
八王子東 30－3 秋川
小金井北 28－1 秋川

○むブロック
城北学園 24－8 西
城北学園 12－10 両国
両国 19－13 西

○めブロック
専大付 27－19 淵江
専大付 21－12 雪谷
雪谷 15－13 淵江

▼決勝トーナメント1回戦
世田谷工 20－18 清瀬
東村山 13－11 城西
武蔵村山東 13－10 葛飾野
早実 23－21 片倉
府中 34－9 上野
早大学院 15－8 府中東
国立 23－4 石神井
安田学園 15－12 羽村
中大附 16－7 江戸川
八王子東 23－14 城北学園

▼2回戦
明星 32－7 開成
世田谷工 22－10 砂川
筑波大駒場 14－13 東村山
成城 18－9 日野台
三鷹 18－13 武蔵村山東
新宿 26－17 篠崎
府中 27－16 東大和南
立川 17－16 青山学院
日体荏原 25－7 神代
永山 25－15 早大学院
農大一 23－19 国立
東京 30－4 巣鴨
国分寺 29－15 井草
中大附 15－14 南野
八王子東 22－17 小岩
拓大一 35－9 専大付

▼3回戦
明星 27－7 世田谷工

筑波大駒場 14－13 成城
新宿 12－11 三鷹
府中 24－14 立川
永山 19－18 日体荏原
東京 19－15 農大一
国分寺 19－16 中大附
拓大一 24－14 八王子東

▼4回戦
明星 29－15 筑波大駒場
府中 24－7 新宿
東京 29－6 永山
拓大一 19－3 国分寺

▼準決勝
明星 33－15 府中
拓大一 17－11 東京

▼3位決定戦
東京 22－14 府中

▼決勝
拓大一 16（7－4、9－8）12 明星

〈女子〉

▼予選リーグ

○Aブロック
目黒 8－2 雪谷
目黒 8－8 東京
東京 5－3 雪谷

○Bブロック
砂川 14－10 南平

○Cブロック
佼成女 40－2 淵江
佼成女 棄権 杉並
淵江 棄権 杉並

○Dブロック
拓大一 12－11 国分寺
拓大一 14－10 府中東
府中東 10－7 国分寺

○Eブロック
国立 13－8 鶴川
国立 8－5 武蔵野北
鶴川 4－2 武蔵野北

○Fブロック
田無 20－5 府中東
田無 7－7 文華女
文華女 18－5 府中東

○Gブロック
保谷 11－5 小平
保谷 15－6 武蔵
武蔵 13－11 小平

○Hブロック
富士 12－5 学大付
富士 棄権 白鴎
学大付 棄権 白鴎

○Iブロック
久留米西 12－6 日野台
久留米西 21－5 羽村
羽村 10－9 日野台

○Jブロック
小岩 13－9 立教女
小岩 18－5 本所
立教女 14－11 本所

○Kブロック
東大和 24－5 南野
東大和 10－6 東大和南
東大和南 12－5 南野

○Lブロック
江戸川 20－2 一商
江戸川 12－1 広尾
広尾 15－1 一商

○Mブロック
神代 10－1 調布北
神代 16－1 五商
調布北 6－5 五商

○Nブロック
石神井 10－7 上野
石神井 棄権 桜水商
上野 棄権 桜水商

○Oブロック
白梅学園 23－6 桐朋
白梅学園 23－6 小金井北
桐朋 17－8 小金井北

○Pブロック
奥多摩 9－5 日大二
蒲田 4－3 豊多摩
日大二 10－7 蒲田

○Qブロック
府中 18－6 共立第二
府中 20－3 武蔵村山東
武蔵村山東 9－6 共立第二

○Rブロック
井草 8－3 農大一
井草 5－5 青山学院
青山学院 9－6 農大一

○Sブロック
八王子東 19－6 東海大菅生
八王子東 棄権 農業
東海大菅生 棄権 農業

○Tブロック
大崎 8－5 墨田川
大崎 9－6 西
墨田川 7－3 西

○Uブロック
富士森 22－1 福生

▼決勝トーナメント1回戦
富士 11－10 保谷

▼2回戦
砂川 15－6 目黒
佼成女 23－3 拓大一
武蔵野女 17－6 国立
文大杉並 24－3 田無
久留米西 12－7 富士
南野 16－7 小岩
神代 10－4 江戸川
石神井 12－10 白梅学園
日野 棄権 豊多摩
菊華 12－8 府中
井草 11－6 八王子東
富士森 21－3 大崎

▼3回戦
藤村女 24－2 砂川
武蔵野女 18－16 佼成女
文大杉並 22－4 久留米西
八雲学園 19－2 東大和
日体桜華 14－6 神代
日野 10－7 石神井
菊華 8－3 井草
江東商 19－7 富士森

▼4回戦
藤村女 13－8 武蔵野女
文大杉並 14－6 八雲学園
日体桜華 7－5 日野
江東商 12－7 菊華

▼準決勝
文大杉並 19－18 藤村女
江東商 27－2 日体桜華

▼3位決定戦
藤村女 21－9 日体桜華

▼決勝
江東商 16（7－4、9－8）12 文大杉並

## 第6回関東高校選抜大会

（2月8、9日／埼玉県立スポーツ研修センター体育館ほか）

〈男子〉

▼予選リーグ
○Aブロック
土浦日大 19－12 日川
（茨城） （山梨）
浦和学院 25－22 土浦日大
（埼玉）
浦和学院 16－13 日川
〔順位〕①浦和学院②土浦日大③日川
○Bブロック
国学院栃木 20－18 富岡
（栃木） （群馬）
市川 21－13 国学院栃木
（千葉）
市川 27－11 富岡
〔順位〕①市川②国学院栃木③富岡
※浦和学院、市川は全国選抜大会に出場。
▼代表決定リーグ
土浦日大 27－22 富岡
国学院栃木 20－10 日川
日川 24－20 富岡
土浦日大 23－17 国学院栃木
〔順位〕①土浦日大②国学院栃木③日川④富岡
※土浦日大、国学院栃木は全国選抜大会に出場。
▼決勝トーナメント1回戦
横浜商工 16－15 拓大一
（神奈川） （東京）
浦和学院 15－10 市川
▼3位決定戦
市川 16－15 拓大一
▼決勝
横浜商工 22〔10－10, 12－8〕18 浦和学院

〈女子〉
▼予選リーグ
○Aブロック
昭和学院 20－3 浦和実
（千葉） （埼玉）
浦和実 18－13 日川
（山梨）
昭和学院 22－9 日川
〔順位〕①昭和学院②浦和実③日川
○Bブロック
水海道二 17－10 栃木商
（茨城） （栃木）
水海道二 19－15 群馬女
（群馬）
栃木商 16－12 群馬女
〔順位〕①水海道二②栃木商③群馬女
※昭和学院、水海道二は全国選抜大会に出場。
▼代表決定リーグ
群馬女 15－10 浦和実
栃木商 25－14 日川
群馬女 17－16 日川
栃木商 22－11 浦和実
〔順位〕①栃木商②群馬女③浦和実④日川
※栃木商、群馬女は全国選抜大会に出場。
▼決勝トーナメント1回戦
川崎北 17－8 江東商
（神奈川） （東京）
昭和学院 14－9 水海道二
▼3位決定戦
水海道二 16－10 江東商
▼決勝
昭和学院 14〔7－6, 7－2〕8 川崎北

# 東海

## 愛知県高校新人大会

◎西三河支部予選
〈男子〉
▼1回戦
刈谷工 14－11 碧南
豊野 19－5 碧南工
岡崎西 17－6 幸田
豊田 22－10 刈谷北
岡崎工 22－4 西尾実
安城東 16－11 知立東
三河 19－10 衣台
安城南 13－7 西尾
岡崎北 19－6 西尾東
刈谷 30－8 吉良
岡崎東 17－15 三好
豊田北 17－2 高浜
安城 15－7 一色
▼2回戦
岡崎城西 26－1 刈谷工
岡崎西 12－10 豊野
豊田 23－15 岡崎工
三河 19－7 安城東
豊田南 14－13 安城南
刈谷 14－9 岡崎北
岡崎東 15－15 豊田北
3PTC2
岡崎 22－6 安城
▼3回戦
岡崎城西 22－7 岡崎西
豊田 18－13 三河
豊田南 18－8 刈谷
岡崎 17－13 岡崎東
▼5～8位決定戦
岡崎西 7－6 刈谷
岡崎西 12－12 三河
岡崎西 21－14 岡崎東
刈谷 19－12 三河
刈谷 21－14 岡崎東
三河 16－12 岡崎東
▼決勝リーグ
岡崎城西 15－8 岡崎
岡崎城西 23－8 豊田南
岡崎城西 26－7 豊田
岡崎 15－7 豊田南
岡崎 19－10 豊田
豊田南 21－14 豊田

〈女子〉
▼1回戦
幸田 16－6 一色
衣台 29－4 西尾東
豊田 21－3 吉良
岡崎商 10－6 知立
岡崎東 7－6 刈谷北
豊田北 10－1 安城南
岡崎北 8－4 刈谷
岡崎 14－11 安城
安城東 17－6 碧南
西尾 13－3 知立東
▼2回戦
三好 32－1 幸田
衣台 15－7 豊田
豊野 11－3 豊田東
安城学園 13－6 岡崎商
豊田南 17－7 岡崎東

岡崎北 8－4 豊田北
岡崎 5－3 安城東
岡崎西 22－1 西尾

▼3回戦
三好 25－8 衣台
安城学園 20－11 豊野
豊田南 17－2 岡崎北
岡崎西 10－4 岡崎

▼5～8位決定戦
豊野 15－9 岡崎
豊野 16－7 岡崎北
豊野 18－8 衣台
岡崎 8－5 岡崎北
岡崎 16－13 衣台
岡崎北 14－13 衣台

▼決勝リーグ
三好 11－9 安城学園
三好 11－5 岡崎西
三好 18－6 豊田南
安城学園 9－9 岡崎西
安城学園 15－10 豊田南
岡崎西 11－6 豊田南

**◎尾張支部予選**

〈男子〉

▼1回戦
尾北 14－6 起工
一宮南 14－6 犬山
蟹江 10－5 一宮西
佐織工 21－13 稲沢
一宮工 14－12 津島
稲沢東 22－13 岩倉
一宮北 15－12 美和
西春 21－20 一宮興道
江南 14－12 尾西
新川 18－6 津島東
平和 18－5 弥富

▼2回戦
小牧南 23－5 尾北
蟹江 16－6 一宮南
佐織工 24－5 一宮工
丹羽 22－13 稲沢東
五条 15－7 一宮北
犬山南 24－10 西春
新川 16－10 江南
一宮 13－8 平和

▼3回戦
小牧南 18－12 蟹江
佐織工 14－12 丹羽
犬山南 19－8 五条
新川 9－9 一宮

▼準決勝
小牧南 25－18 佐織工
犬山南 25－9 新川

▼3位決定戦
佐織工 27－21 新川

▼決勝
小牧南 20－18 犬山南

〈女子〉

▼1回戦
五条 12－5 一宮西
美和 12－8 新川
江南 14－1 小牧南
尾北 12－3 岩倉
津島 7－4 一宮北
木曽川 15－4 犬山南
一宮南 9－3 津島東
一宮 8－3 津島女

▼2回戦
佐屋 26－1 五条
尾西 22－5 美和
蟹江 8－6 江南
稲沢東 18－1 尾北
一宮興道 14－4 津島
木曽川 15－5 一宮商
西春 13－4 一宮南
一宮女 12－6 一宮

▼3回戦
佐屋 11－6 尾西
蟹江 11－6 稲沢東
一宮興道 15－11 木曽川
一宮女 12－4 西春

▼準決勝
佐屋 24－8 蟹江
一宮興道 17－5 一宮女

▼3位決定戦
蟹江 13－11 一宮女

▼決勝
佐屋 19－7 一宮興道

**◎名南支部予選会**

〈男子〉

▼1回戦
名城大附 27－13 熱田
東郷 24－2 名市工
中村 19－18 鳴海
豊明 16－11 名南大付
向陽 24－13 同朋
瑞陵 21－16 星城
松蔭 13－11 名古屋大谷
昭和 34－13 亨栄
緑 22－6 日進
南陽 19－17 惟信

▼2回戦
桜台 38－10 名城大附
天白 24－14 東郷
中村 22－11 豊明
向陽 25－24 名古屋南
名南工 30－6 瑞陵
松蔭 10－9 昭和
日進西 19－13 緑
中京 38－5 南陽

▼3回戦
桜台 24－11 天白
向陽 27－11 中村
名南工 18－9 松蔭
中京 21－14 日進西

▼5位決定戦
天白 24－8 中村
松蔭 8－7 日進西

▼準決勝
桜台 34－9 向陽
中京 21－17 名南工

▼3位決定戦
名南工 20－9 向陽

▼決勝
桜台 24－17 中京

〈女子〉

▼1回戦
日進西 28－2 同朋
高蔵 19－9 中村
向陽 9－3 鳴海
東郷 13－5 南陽
昭和 9－6 中川商

▼2回戦
名短付 58－11 日進西
富田 28－6 瑞陵
若宮商 10－7 高蔵
天白 17－7 向陽
松蔭 15－8 東郷
惟信 14－13 名古屋南
桜台 30－4 熱田
東海女 26－1 昭和

▼3回戦
名短付 36－9 富田
天白 14－6 若宮商

松蔭 24－12 惟信
東海女 15－7 桜台

▼5・6位決定戦
富田 16－6 若宮商
桜台 25－10 惟信

▼準決勝
名短付 45－5 天白
東海女 29－5 松蔭

▼3位決定戦
天白 11－9 松蔭

▼決勝
名短付 33－11 東海女

## ◎名北支部予選

### 〈男子〉

▼1回戦
旭丘 21－20 名大付
市工芸 29－5 瀬戸北
春日井東 22－16 春日井西
千種 14－12 春日丘
東邦 22－7 名古屋西
旭野 28－16 長久手
瀬戸 16－12 北
瀬戸西 16－12 栄徳
明和 11－10 名東
東海 22－17 菊里
東山工 24－14 愛知工
山田 24－15 春日井工

▼2回戦
愛知 18－8 旭丘
春日井東 23－17 市工芸
千種 26－7 東邦
春日井南 21－15 旭野
春日井 14－8 瀬戸
明和 28－13 瀬戸西
東海 21－11 東山工
高蔵寺 36－14 山田

▼3回戦
愛知 15－10 春日井東
千種 16－11 春日井南
春日井 16－10 明和
東海 14－13 高蔵寺

▼5～8戦
春日井 20－8 春日井南
高蔵寺 26－20 明和

▼7位決定戦
春日井南 16－14 明和

▼5位決定戦
春日井東 29－23 高蔵寺

▼準決勝
愛知 30－1 千種
東海 21－18 春日井

▼3位決定戦
春日井 19－14 千種

▼決勝
愛知 21－9 東海

### 〈女子〉

▼1回戦
菊里 19－10 瀬戸
市邨 17－9 千種
春日井東 13－13 瀬戸西（2PTC1）
北 18－8 椙山
長久手 23－13 名東
市工芸 9－5 瀬戸北
西陵商 不戦勝 春日井商
旭野 17－6 高蔵寺
明和 13－7 東邦
春日井南 26－9 名古屋商
淑徳 20－8 名古屋西

▼2回戦
菊里 13－13 春日井西（3PTC2）
市邨 25－7 春日井東
愛知商 15－12 北
緑丘商 25－10 長久手
春日井 29－6 市工芸
旭野 24－8 西陵商
春日井南 26－11 明和
中京女 26－6 淑徳

▼3回戦
菊里 19－14 市邨
緑丘商 22－14 愛知商
春日井 15－13 旭野
中京女 17－5 春日井南

▼5～8位戦
市邨 22－21 愛知商
旭野 18－16 春日井南

▼7位決定戦
愛知商 15－14 春日井南

▼5位決定戦
旭野 19－6 市邨

▼準決勝
緑丘商 23－10 菊里
中京女 25－20 春日井

▼3位決定戦
春日井 21－20 菊里

▼決勝
中京女 15－12 緑丘商

## ◎知多支部予選

### 〈男子〉

▼1回戦
大府東 21－11 知多東
常滑北 12－9 東浦
武豊 不戦勝 東海南
半田東 18－13 知多
横須賀 18－9 大府

▼2回戦
半田 28－18 大府東
武豊 14－6 常滑北
半田東 19－15 阿久北
半田工 23－12 横須賀

▼準決勝
半田 21－4 武豊
半田東 21－13 半田工

▼3位決定戦
武豊 15－8 半田工

▼決勝
半田 18－13 半田東

### 〈女子〉

▼1回戦
東浦 17－3 大府
横須賀 15－11 常滑北
半田東 25－0 知多
武豊 12－2 知多東
半田商 18－6 常滑
東海商 12－4 東海南
阿久比 7－4 桃陵

▼2回戦
半田 20－8 東浦
半田東 16－3 横須賀
武豊 17－5 半田商
阿久比 11－9 東海商

▼準決勝
半田 11－3 半田東
武豊 13－3 阿久比

▼3位決定戦
半田東 9－3 阿久比

▼決勝
半田 15－10 武豊

## ◎東三河支部予選

### 〈男子〉

▼1回戦
豊橋東 19－13 国府
豊丘 27－11 豊橋商

三谷水産 21－12 御津
桜丘 29－6 新城東
豊橋工 19－15 豊橋西
蒲郡東 24－9 豊橋南

▼2回戦
豊川工 26－13 豊橋東
三谷水産 20－16 豊丘
桜丘 26－9 豊橋工
蒲郡東 26－10 時習館

▼決勝リーグ
蒲郡東 21－15 豊川工
蒲郡東 17－9 三谷水産
蒲郡東 24－14 桜丘
豊川工 27－7 三谷水産
豊川工 19－12 桜丘
三谷水産 11－10 桜丘

《女子》
▼1回戦
豊橋南 28－8 蒲郡
御津 14－8 豊橋東
豊橋西 11－9 豊丘

▼2回戦
豊橋商 42－10 新城東
豊橋南 15－8 時習館
蒲郡東 16－10 御津
国府 16－2 豊橋西

▼決勝リーグ
国府 19－7 豊橋商
国府 8－8 豊橋南
国府 16－10 蒲郡東
豊橋商 14－10 豊橋南
豊橋商 20－7 蒲郡東
豊橋南 9－8 蒲郡東

◎県大会
《男子》
▼1回戦
蒲郡東 16－12 岡崎
豊田南 15－9 武豊
春日井 24－11 半田東
千種 11－7 半田
名商工 19－13 豊川工
天白 23－16 豊田
愛知 29－5 向陽
岡崎西 21－20 三谷水産

▼2回戦
岡崎城西 21－18 蒲郡東
豊田南 13－12 佐織工
春日井 24－21 犬山南
小牧南 20－18 千種
中京 24－6 名南工
東海 27－17 天白
愛知 33－7 新川
桜台 36－6 岡崎西

▼3回戦
岡崎城西 24－8 豊田南
小牧南 17－11 春日井
中京 18－14 東海
愛知 24－17 桜台

▼決勝リーグ
岡崎城西 19－13 小牧南
中京 18－14 愛知
中京 15－13 岡崎城西
愛知 22－13 小牧南
愛知 15－11 岡崎城西
中京 22－13 小牧南
〔順位〕①中京②愛知③岡崎城西④小牧南

《女子》
▼1回戦
岡崎西 13－7 豊橋南
春日井 22－17 武豊
蟹江 20－9 半田東
天白 16－10 一宮女
半田 24－17 豊橋商
豊田南 20－5 国府
安城学園 27－5 菊里
緑丘商 23－9 松蔭

▼2回戦
名短付 42－9 岡崎西
桜台 13－12 春日井
中京女 17－10 蟹江
佐屋 25－12 天白
東海女 17－4 半田
豊田南 14－11 一宮興道
安城学園 17－10 富田
三好 14－8 緑丘商

▼3回戦
名短付 33－5 桜台
佐屋 18－13 中京女
東海女 21－6 豊田南
三好 16－4 安城学園

▼決勝リーグ
名短付 29－11 佐屋
東海女 12－9 三好
名短付 25－10 東海女
三好 18－11 佐屋
名短付 36－15 三好
東海女 20－12 佐屋
〔順位〕①名短付②東海女③三好④佐屋

## 第33回岐阜県室内選手権

（1月15、16、19、26日／岐阜メモリアルセンター第二体育館）

《一般男子》
▼1回戦
岐阜大 棄権 サンケミカル
バウハウス 2[illegible]－13 高山ク
丸栄
日本耐酸壜 24－9 羽島北ク
アシスト岐阜 25－16 三洋電気
伊吹ク 14－13 岐阜南ク

▼2回戦
市岐阜商ク 30－8 アシスト岐阜
岐阜西ク 20－16 伊吹ク
岐阜教員 25－13 岐阜大
日本耐酸壜 22－17 バウハウス
丸栄

▼準決勝
岐阜商ク 16－14 岐阜西ク
岐阜教員 19－15 日本耐酸壜

▼決勝
岐阜教員 23（9－6、4－7、7－7、3－2）22 市岐阜商ク

《一般女子》
▼1回戦
高山ク 20－6 大垣女ク
岐阜大 11－6 三洋電気

▼準決勝
高山ク 15－11 こうよう会
岐阜教員 18－10 岐阜大

▼決勝
岐阜教員 23（11－5、12－9）14 高山ク

《高校男子》
▼1回戦
大垣工 27－16 岐阜北
大垣南 21－12 各務原東
県岐阜商 18－8 可児
市岐阜商 21－3 高山工
海津 11－10 中京商

## 指導委員会からのお知らせ

公認コーチの新制度資格への移行について

すでにご存知のこととは思いますが、日本体育協会では、昭和63年より新しい指導者制度を発足させております。これに伴い日本ハンドボール協会においても、平成元年9月に事業認定を受け、平成2年度には第1回目のC級コーチ養成講習会を実施致しました。

新制度発足に伴い、旧制度における上級コーチ、コーチ（スポーツトレーナー1、2級）の資格は優先的に新制度資格に移行することができます。つきましては以下のような条件が必要であります。

○旧資格登録者であること

（旧資格登録期限切れの方は、旧制度に於て再登録を行う必要があります）

すでに多くの方々は移行を致しましたが、前回なんらかの事情で、もれた方が少なからずみえます。この措置は事業認定を受けた日から5年の間に行わないと資格が消滅し、いろいろなメリットも失われてしまいます。個々の方々には日本協会よりご案内致しますので、漏れのないようお願いいたします。

住所変更などで連絡の届かない方は、日本協会までお申し出ください。

なお、実績顕著な方で、日本体育協会の審査基準に適合される方は、日本協会推薦により、上級コーチよりA級コーチに、コーチからB級コーチに昇格移行できます。

C級スポーツ指導員養成講習会修了者について

公認ハンドボール指導者の養成については317号にて報告いたしましたが、この度山梨県における修了者が報告されましたので、修了者のお名前を掲載いたします。

水越日出夫・笠井邦彦・楡井俊彦・菊島　功・窪田正典・古屋浩幸・田辺和夫・菊島裕次・中沢達彦・八田政久・依田　久・小沢　茂・大村美雪・矢沢恵美子・新谷幸司・辻　昌彦

---

斐太 20－13 郡山

▼2回戦
岐阜西工 10－9 大垣工
県岐阜商 17－6 大垣南
市岐阜商 23－7 海津
岐阜東 20－10 斐太

▼準決勝
岐阜西工 9－6 県岐阜商
市岐阜商 14－6 岐阜東

▼決勝
岐阜西工 15（7－4、6－9、2－1）14 市岐阜商

〈高校女子〉

▼1回戦
海津 13－8 羽島北
加納 9－7 大垣女
県岐阜商 19－2 斐太
瑞浪 12－9 各務原西

▼2回戦
富田女 19－8 海津
高山 17－9 加納
県岐阜商 16－10 郡上
養老女商 18－9 瑞浪

▼準決勝
富田女 12－3 高山
養老女商 15－8 県岐阜商

▼決勝
養老女商 12（6－7、6－4）11 富田女

## 中国

### 第23回岡山県高校室内選手権

（1月18、19日／岡山県体育館）

〈男子〉

▼1回戦
総社 21－10 関西
総社南 16－15 倉敷天城
東岡工 13－9 操山
岡山工 21－11 水島工
倉敷工 32－9 津山工
倉敷南 11－11 玉野光南（3PTC1）

▼2回戦
理大附属 14－10 西大寺
吉備 16－12 古城池
総社 19－7 総社南
東岡工 13－10 岡山工
倉敷工 16－8 倉敷南
吉備 17－12 理大附属

▼準決勝
総社 18－10 東岡工
倉敷工 11－9 吉備

▼3位決定戦
吉備 11－11 東岡工（3PTC1）

▼決勝
総社 16（7－2、9－5）7 倉敷工

〈女子〉

▼1回戦
児島 13－8 真備
倉敷商 10－6 玉野

▼2回戦
総社 15－5 児島
西大寺 6－4 総社南
倉敷中央 13－8 倉敷天城
玉野光南 18－2 倉敷商

▼準決勝
総社 9－8 西大寺
倉敷中央 11－10 玉野光南

▼3位決定戦
光南 13－7 西大寺

▼決勝
総社 13（7－8、6－5）13 倉敷中央（2PTC1）

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三二〇号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可 平成四年五月二十六日 印刷 平成四年六月一日 発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 (418) 二三六一
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 中澤重夫
定価三百五拾円 (年間購読料三千三百円)